2014 年 7 月 14 日

報道関係各社　御中

一般社団法人日本機械学会

2014 年度「機械遺産」8 件が決まる！

一般社団法人日本機械学会（会長：久保司郎　摂南大学教授／大阪大学名誉教授）は、日本国内に現存する歴史的に意義のある「機械遺産」を選定し、8 月 7 日「機械の日」に認定いたします。

機械遺産の認定は、2007 年に本会創立 110 周年を記念して発足した事業で、これまで 61 件を認定し、今年で 8 回目となります。応募・推薦があった候補の中から厳正なる審査の上、下記 8 件の認定を決定いたしました。

なお、認定式は 2014 年 8 月 7 日（木）「機械の日・機械週間」記念行事（早稲田大学国際会議場：東京都新宿区西早稲田）に於いて行われます。

■2014 年度「機械遺産」認定一覧

【】内は遺産所在地

第 62 号	「土の館」―北海道の土作りとトラクターの博物館―	【北海道】
第 63 号	農機具「資料館」―農業機械黎明期の機械と史料の博物館―	【埼玉県】
第 64 号	「清水港テルファー」―日本の貨物輸送を支えた港湾機械―	【静岡県】
第 65 号	南極点到達雪上車（KD604, KD605）	【東京都／秋田県】
第 66 号	時代を画した国産腕時計	【東京都】
第 67 号	国産機械「門形平削り盤」―工部省赤羽工作分局製―	【愛知県】
第 68 号	フジ自動マッサージ機―世界初の量産型マッサージチェア―	【大阪府】
第 69 号	国産機械製造の礎『国産機械図集』	【東京都】

「機械遺産」について

日本機械学会は、日本国内の機械技術面で歴史的意義のある「機械遺産」（Mechanical Engineering Heritage）を認定することで、文化遺産として大切に保存し、次世代に伝承するために本会 110 周年を記念して本事業を創立致しました。認定対象は原則として①Site（歴史的景観を構成する機械遺産）②Landmark（機械を含む象徴的な建造物・構造物）③Collection（保存・収集された機械）④Documents（歴史的意義のある機械関連文書類）の 4 分野の機械遺産。会員から応募・推薦のあった候補について、本会の技術と社会部門「機械遺産委員会」で選定・評価を行い、「機械遺産監修委員会」の総合評価を経て最終的に候補を絞り込み、理事会で承認されたものを「機械遺産」として認定表彰するものです。

これまでに認定された機械遺産の一覧等は、本会ホームページ http://www.jsme.or.jp/kikaiisan/をご覧下さい。

本ニュースリリースは解禁日時７月２４日（木）午前０時を厳守願います

【ニュースリリースに関するお問い合わせ先】
〒160-0016　東京都新宿区信濃町 35 番地　信濃町煉瓦館 5 階
一般社団法人日本機械学会
学会運営部門　総務グループ　曽根原・高橋
電話（03）5360-3500／FAX（03）5360-3508
E-mail：sonehara@jsme.or.jp

機械遺産

Mechanical Engineering Heritage

2014年度機械遺産一覧

62. Landmark.
「土の館」…P02

63. Landmark.
農機具「資料館」…P03

64. Landmark.
「清水港テルファー」…P04

65. Collection.
南極点到達雪上車(KD604, KD605)…P05

66. Collection.
時代を画した国産腕時計…P06

67. Collection.
国産機械「門形平削り盤」…P07

68. Collection.
フジ自動マッサージ機…P08

69. Documents.
国産機械製造の礎「国産機械図集」…P09

一般社団法人 日本機械学会
The Japan Society of Mechanical Engineers

〒160-0016 東京都新宿区信濃町35番地 信濃町煉瓦館5階
TEL:03-5360-3500(代表) FAX:03-5360-3508

［日本機械学会「機械遺産」　機械遺産　第62号
MECHANICAL ENGINEERING HERITAGE NO.62］

「土の館」

―北海道の土作りとトラクターの博物館―

Soil and Tractor Museum of Hokkaido

この施設では、トラクターや機械式農機具を中心とし、その系統だった保存展示を行っている。その目的は、伝承すべき営農哲学を実物教材（農業機械）によって示すことである。なかでも、トラクターをはじめとする農業機械群は、主に道内の農場で実際に使用されたもので、第二次世界大戦終結後の大型化・機械化が急速に進んだ時期のものを中心としている。80台を有するトラクターは、各地域、各営農者への導入、使用、館への寄贈・寄託の経緯が記録され、我が国の他地域とは根本的に異なる北海道の大規模営農変遷史の機械面からの証人となっている。また、これらにかかわる資料も多く収集されており、一般的な企業博物館・資料館とは異なって、自社製品展示はほとんどない。

現在は省略された機能を持つ過去の機械式耕起は、土作りという面から理にかなったものであり、現代の先進的機械でも使い方を誤れば地力を失わせるという事実を指摘している。また、実物教材として土を基本とした遺産を、現代の機械式農業への教訓伝承のために用いる努力とともに、農場の自己記録の推奨などを実施している。

《写真提供：スガノ農機株式会社》

土の館　　公開（団体利用は要予約）

- 開館時間：9:00～16:00
- 利用料：無料
- 利用できない日：土、日、祝日およびスガノ農機（株）富良野支店の休業日（7、8月は無休）
- 住所：〒071-0502　北海道空知郡上富良野町西2線北25号
- 電話番号：0167-45-3055
- HPアドレス：http://www.sugano-net.co.jp/yakata.html
- 交通機関：旭川空港から車で35分　または　JR上富良野駅から車で5分

農機具「資料館」

―農業機械黎明期の機械と史料の博物館―

Museum of Agricultural Technology Progress

この資料館は、農研機構生研センター（農業機械化研究所）の施設である。ここには、日本の農業の機械化を国家的事業として担った旧農林省の農事試験場（鴻巣試験地）が、農機具の開発改良のために購入した外国機、さらに性能の比較研究をした国産機など、250点あまりが保存展示されている。製造年代は、明治後期から昭和30年代までにわたる。

代表的な展示物としては、螺旋（らせん）水車、大正末発明の傘型畜力原動機、発動機利用の先駆けとなり国産開発を促した外国製発動機、大正期に輸入・研究された西欧製と国産黎明（れいめい）期の耕運機や田植機、国産初の本格的乗用トラクター、大正初期の足踏み脱穀機、世界初の藁縄（わらなわ）製縄機などがある。

ここでは、人力から畜力そして原動機へと変化していった、わが国の農業機械化の歴史が一望でき、辛い農作業から人々が解放されていく様子や、日本の小規模農業に合った生産効率の向上過程が理解できる。そこには先人達の工夫の跡が処々に見られ、これらの精神は現在の農研機構生研センター（農業機械化研究所）にも受け継がれている。併設の農業機械の資料を集めた機械化情報館や現代製品のショールームでは、日本の農業機械化の歴史と未来に触れることができる。

《写真：日本機械学会》

農業・食品産業技術総合研究機構　生物系特定産業技術研究支援センター　資料館　公開（事前予約要）

- 開館時間：9:30～16:30
- 利用料：無料
- 利用できない日：土、日、祝日、年末年始、お盆
- 住所：〒331-8537　埼玉県さいたま市北区日進町1-40-2
- 電話番号：048-654-7034
- HPアドレス：http://www.naro.affrc.go.jp/index.html
- 交通機関：JR大宮駅からバス10分、自衛隊前バス停下車徒歩5分

［日本機械学会「機械遺産」　機械遺産　第64号
MECHANICAL ENGINEERING HERITAGE NO.64］

「清水港テルファー」

―日本の貨物輸送を支えた港湾機械―

Telpher of the Port of Shimizu

テルファーとは荷物を吊り上げて水平レールに沿って移動させるクレーンの一種である。清水港テルファーは1928（昭和3）年に完成し、テルファー形式の木材荷揚げ機械としては現存唯一のものである。ここで認定するものは、テルファーのレールを懸架する鋼トラス構造物とその敷地を含んでいる。

明電舎製の電動機を用いた捲揚装置（トロリ）と運転手室は東京瓦斯電気工業製の「トカコ電動ホヰスト」で定格容量2トン、施工工事は神戸の内外エレベータ会社が行い、その後に定格容量3トンのものに交換されて、1971（昭和46）年まで使用された。8.4mの高さに架設された総延長189.4mのレールに沿って、運転手室付きのトロリが走行する。現在保存されている2台のトロリは容量3トンのものであるが、運転手室は残っていない。

清水港テルファーは木材を陸揚げする効率を飛躍的に向上させ、清水港が国内最大の木材陸揚げ港として発展することに大きく貢献した。テルファーは現在も各地に存在するが、清水港テルファーは、ショッピングモールに隣接した公園にあり、港を含めた景観の一部となっている。市民に親しまれている大型機械として貴重な存在である。

《写真提供：静岡県清水港管理局》

清水マリンパーク　　公　開

- 開館時間：随時
- 利用料：無料
- 利用できない日：なし
- 住所：〒424-0824　静岡県静岡市清水区新港町7番地7（清水マリンパーク内）
- 電話番号（公開施設）：054-353-2203（静岡県清水港管理局）
- HPアドレス：http://www.portofshimizu.com/観光イベント／清水港周辺情報/
- 交通機関：JR清水駅または静岡鉄道新清水駅からバス三保山の手線「波止場・フェルケール博物館」バス停下車、徒歩3分

［日本機械学会「機械遺産」 機械遺産 第65号］
MECHANICAL ENGINEERING HERITAGE NO.65

南極点到達雪上車(KD604, KD605)

Japan-made Snow Vehicles(KD604 & KD605)which Reached the South Pole in 1968

雪上車KD604とKD605は、わが国の南極観測史上、最初で最後となる第9次南極観測隊の極点往復プロジェクトで、1968(昭和43)年12月19日南極点に到達した雪上車3台のうち2台である。この行程は往復約5200km、調査期間約5カ月に及んだ。

これらの車両は極低温や、南極特有の細かい上下方向に柱状の凹凸のある雪面環境に対応するため、小松製作所(当時)で試行錯誤の末、開発された。操縦も比較的容易であったという。また、これらは後に世界初の南極隕石発見にも貢献し、後継機が開発されるまでの約10年間、南極内陸調査の主役となった。外板の黒塗装は、太陽熱を少しでも吸収する目的で行われ、この措置もあってか、内部では普通の室内のような服装で過ごせたという。

これらが見せた極限での車両設計・運転実績を引き継いだ雪上車は、わが国が当時世界最多の南極隕石保有国となるという、世界の南極観測史上に残る成果を側面から支えた。極点旅行で使用された残りのKD603は極点からの往路にエンジンが故障し、修理不能と判断され、放棄された。KD605はこの後も使用され、わが国が南極で使用した雪上車としては最長の総走行距離17000kmを達成している。なお、実地試験用の試作機KD601は極点旅行には参加しておらず、KD602は昭和基地で保管中である。

《写真提供：国立極地研究所、にかほ市教育委員会》

国立極地研究所 公開(団体利用は要予約)
南極・北極科学館(KD604)
- 開館時間：10:00～17:00（入館は16:30まで）
- 利用料：無料
- 利用できない日：日、月、祝日、年末年始
- 住所：〒190-8518　東京都立川市緑町10-3
- 電話番号：042-512-0910
- HPアドレス：http://www.nipr.ac.jp/science-museum/
- 交通機関：JR立川駅(北口)から徒歩25分 または　多摩都市モノレール高松駅から徒歩10分

白瀬南極探検隊記念館(KD605) 公　開
- 開館時間：9:00～17:00（入館は16:30まで）
- 利用料：大人300円　子供200円
- 利用できない日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、年末年始　※ただし、小中学校の夏休み期間中は月曜日も開館。期間は要問合せ。
- 住所：〒018-0302　秋田県にかほ市黒川字岩潟15番地3
- 電話番号：0184-38-3765
- HPアドレス：http://hyper.city.nikaho.akita.jp/shirase/
- 交通機関：JR金浦駅から徒歩20分

［日本機械学会「機械遺産」　機械遺産　第66号］
MECHANICAL ENGINEERING HERITAGE NO.66

時代を画した国産腕時計

Japan-made Wristwatches which Showed Remarkable Technological Innovations

ローレル12 型

初代 グランドセイコー

クオーツ　アストロン35SQ

1873（明治6）年、それまでの不定時法から定時法への切替えにより、和時計から西洋式時計への転換が急速に始まった。日本の腕時計製造は、服部金太郎が1892（明治25）年に設立した精工舎に始まる。彼は、懐中時計製造を進める中で精密加工や組立技術を集積し、その後の腕時計製造技術の基盤を作った。

「ローレル12型」は、1913（大正2）年に発売された国産初の腕時計で、個人用腕時計の登場は、国民に新しい生活文化を創造した。

「初代グランドセイコー」は、1960（昭和35）年に発売された腕時計で、当時世界最高とされたスイスクロノメーター優秀規格と同等の高精度を実現した。この技術を礎とした時計が、1964（昭和39）年に世界最高峰のニューシャテル天文台コンクールに初出展されるが、そのわずか3年後には、欧州各社が長年かけて達成した精度を実現している。

「クオーツ　アストロン35SQ」は1969（昭和44）年に発売された世界初のクオーツ式腕時計で、水晶振動子や時計用IC、ステップモータなどわが国で初めて開発された技術が搭載された。精度は、それまでの機械式腕時計の日差数秒から数十秒が±0.2秒に、月差は±5秒と飛躍的に高められた。

これらの腕時計は、日本が誇る精密機器技術の発展過程を知るための象徴的な遺産である。

《写真提供：セイコーミュージアム》

セイコーミュージアム　公開（事前予約要）

- 開館時間：10:00～16:00（入館受付は15:00まで）
- 利用料：無料
- 利用できない日：月、祝日（5月3、4、5日は開館）、年末年始
- 住所：〒131-0032　東京都墨田区東向島3-9-7
- 電話番号：03-3610-6248
- HPアドレス：http://museum.seiko.co.jp
- 交通機関：東武東向島駅から徒歩8分

［日本機械学会「機械遺産」　機械遺産　第67号
MECHANICAL ENGINEERING HERITAGE NO.67］

国産機械「門形平削り盤」

―工部省赤羽工作分局製―

Double Housing Plaining Machine
―Made by Akabane Engineering Works, Ministry of Industry―

平削り盤は、テーブルを水平往復運動させ、バイトをテーブルの運動方向と直角方向に間欠的に送って、主として平面削りを行う工作機械で、19世紀初頭に欧米で開発されたものである。

本機は、1879（明治12）年、工部省赤羽工作分局で製造された、6フィート型の門形平削り盤である。平削り盤のトップビームに3つの菊花紋章が付けられている。機械の諸元は、全長2815mm、全幅1230mm、全高1680mm、テーブル長2060mm、テーブル幅672mm、ベルト車の直径500mmである。工部省赤羽工作分局は、工作機械国産化を目指して、現在の東京都港区に設立され、官民の需要に応じて、工作機械をはじめ、蒸気機関、水車、ポンプ、プレスなどの機械を製造した。

この門形平削り盤は、同所のカタログ『製造機械品目』に記載されたものの中から岩手県が発注し、北上川の船舶修理所の設備機械として使用した。その後、1901（明治34）年に岩手県立実業学校（現在の岩手県立盛岡工業高校）に実習用機械として引き継がれた。現在は博物館明治村に展示されている。日本機械工業の黎明（れいめい）期の国産技術の実状を今に伝える工作機械であり、その後の日本の工作機械工業発展の礎となったものである。

《写真：日本機械学会》

博物館明治村　　公　開

- 開館時間：（3月～10月）9:30～17:00、（11月）9:30～16:00、
  （12月～2月）10:00～16:00（開館時間は変更することがあります）
- 利用料：大人1,700円、大人65歳以上1,300円、大学生1,300円、高校生1,000円、
  小・中学生600円
- 利用できない日：12月～2月の月曜日、12月31日、1月と8月に休館日有り
- 住所：〒484-0000　愛知県犬山市内山1
- 電話番号：0568-67-0314
- HPアドレス：http://www.meijimura.com
- 交通機関：名鉄犬山駅から明治村行バスで20分

［日本機械学会「機械遺産」　機械遺産　第68号］
MECHANICAL ENGINEERING HERITAGE NO.68

フジ自動マッサージ機

―世界初の量産型マッサージチェア―

Fuji Automatic Massage Machine

本機は、フジ医療器製作所（現　フジ医療器）を創業した藤本信夫により1954（昭和29）年に作られた、世界初の量産型マッサージチェアの第1号機である。これは、タイル掃除用ブラシを製造販売していた創業者が、銭湯で専門職の手を使わず気軽にマッサージできる機械を作りたいという思いから誕生した。

戦後の物資不足の影響がまだ残る中、揉（も）み玉に軟式野球用ボールを用いたり、アームの上下調節機構に自転車用チェーンを使用したりするなど、資材調達に苦労しながら試行錯誤を繰り返し、ようやく本機の完成にこぎ着けた。

マッサージチェアはその後、後続メーカが出現して新たな商品が販売されたことなども手伝い、社会への普及が始まり、2012（平成24）年には年間販売台数が約36万台までになった。当初は銭湯やデパートなど公共の場所に設置されていたものが、現在ではいわゆる「健康家電」として家庭にまで普及している。

マッサージチェアはわが国で発明された医療器械であり、国民生活とその福利厚生に大きな影響を与えた、ユニークな機械の一つである。現在も可動状態にある本機は、マッサージチェアのルーツとして象徴的な存在である。

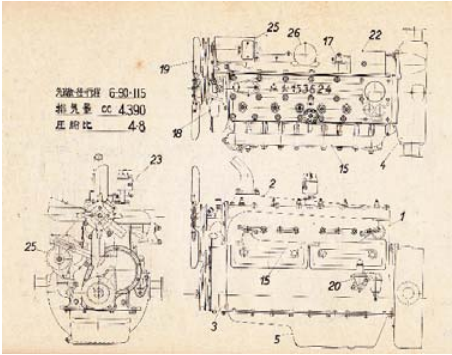
《写真提供：株式会社フジ医療器》

株式会社フジ医療器　　非公開（原則）

- 住所：〒583-0995　大阪府南河内郡太子町太子2372-95
- 電話番号：0721-98-6870
- HPアドレス：http://www.fujiiryoki.co.jp/
- 交通機関：近鉄上ノ太子駅から車で10分

国産機械製造の礎『国産機械図集』

“The Collection of Drawings for Japanese Machines”



昭和初期は、国産機械も外国製機械に劣ることのない優良な機械が製造されていたにもかかわらず外国製機械が重用され、教育界も外国製機械の図面を教授用に使用していた。

日本機械学会の学術図書『國産機械圖集』は“国産品に対する正確なる知識を一般技術者に周知し、国産愛用の念を起さしめ国産愛用促進につなげること及び機械工学教授上の参考図”となることを目的に出版された。

内容は機械工学全般の機械を、外国製品に優る国産品であることを図解的に示した参考図16分野（測定機、蒸気罐、蒸気機関、蒸気タービン、内燃機、自動車、鉄道車輌、水車、ポンプ、送風機、圧縮機、冷凍機、工作機械、クレーン、運搬機、紡織機の288枚「初版」）が収録されている。

自動車の分野には国産標準自動車の項目があり、ガソリン機関、変速機およびクラッチ、推進軸装置、前後車輪軸および後車軸歯車装置、舵取り装置、台枠および担（にない）バネ装置、油圧制御装置、機械制御装置、放熱器、車台の図面など、機械工学を志す学生にとって貴重な教材であった。

1932（昭和7）年初版、1937（昭和12）年に改訂版を発行し、土木鑛山機械、化学および雑機械の項目が加わり、当時の機械工学分野の優良国産機械が網羅された。その後も版を重ね、国内技術者の座右の書になり、わが国工業界・教育界の進歩発展に多大な貢献を果した。

《写真：日本機械学会》

日本機械学会事務局　図書室　公　開

- ●公開時間：9:00～16:30
- ●利用料：無料
- ●利用できない日：土、日、祝日、年末年始
- ●住所：〒160-0016　東京都新宿区信濃町35　信濃町煉瓦館5階
- ●電話番号：03-5360-3500
- ●HPアドレス：http://www.jsme.or.jp/
- ●交通機関：JR信濃町駅から徒歩1分

1 Site
小菅修船場跡の曳揚げ装置

2 Landmark
熊本大学の旧機械実験工場と文化財工作機械群

3 Collection
足踏旋盤《明治8(1875)年伊藤嘉平治作》

4 Collection
陸用蒸気タービン

5 Collection
10A型ロータリエンジン

6 Collection
ホンダCVCCエンジン

7 Collection
民間航空機用FJR710ジェットエンジン

8 Collection
ヤンマー小形横形水冷ディーゼルエンジンHB形

9 Collection
ゐのくち式渦巻きポンプ

10 Collection
高周波発電機

11 Collection
東海道新幹線0系電動客車

12 Collection
230形233号タンク式蒸気機関車

13 Collection
旅客機YS11

14 Collection
カブ号F型(ホンダ自転車用補助エンジン)

15 Collection
麦わら帽子製造用環縫ミシン

16 Collection
無停止杼換式豊田自動織機(G型)第1号機

17 Collection
活版印刷機

18 Collection
コマツブルドーザーG40(小松1型均土機)

19 Collection
オリンパスガストロカメラGT−I

20 Collection
バックトン万能試験機

21 Collection
万能製図機械MUTOH『ドラフターMH-I』

22 Collection
万年自鳴鐘

23 Collection
「旧筑後川橋梁」(筑後川昇開橋)

24 Documents
機械学会黎明期の学術図書
(機械学会誌創刊号,機械工学術語集及び機械工学便覧)

25 Documents
東京帝国大学水力学及び水力機講義ノート
(真野文二／井口在屋教授)

26 Site
三居沢発電所関係機器・資料群

27 Site
三池港水圧式閘門と蒸気式浮クレーン

28 Collection
円太郎バス(フォードTT型)

29 Collection
機械式通信機器群(谷村株式会社新興製作所製)

30 Collection
自働算盤(機械式卓上計算機)パテント・ヤズ・アリスモメトール

31 Collection
電機事業創業期の国産誘導電動機および設計図面

32 Site
札幌市時計台の時計装置

33 Landmark
旧峯岸水車場

34 Collection
親歯車ホブ盤HRS-500のマスターウォームホイール

35 Collection
ロコモビル(国内最古の自家用乗用自動車)

36 Collection
アロー号(現存最古の国産乗用自動車)

37 Collection
英国製50フィート転車台

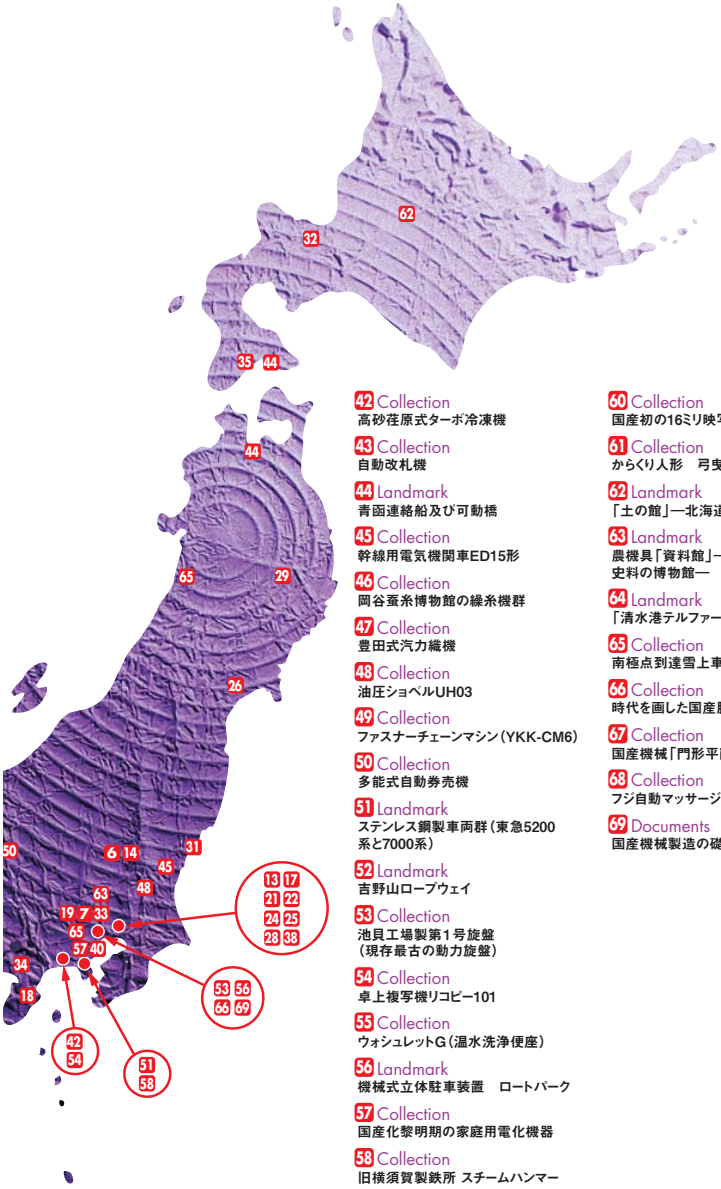
38 Landmark
としまえん「カルーセル エルドラド」

39 Landmark
旧金毘羅大芝居(金丸座)の廻り舞台と旋回機構

40 Collection
たま電気自動車(E4S-47 I)

41 Collection
内燃機関式フォークリフト

「機械遺産」(2007〜2014)所在地地図



42 Collection
高砂荏原式ターボ冷凍機

43 Collection
自動改札機

44 Landmark
青函連絡船及び可動橋

45 Collection
幹線用電気機関車ED15形

46 Collection
岡谷蚕糸博物館の繰糸機群

47 Collection
豊田式汽力織機

48 Collection
油圧ショベルUH03

49 Collection
ファスナーチェーンマシン(YKK-CM6)

50 Collection
多能式自動券売機

51 Landmark
ステンレス鋼製車両群(東急5200系と7000系)

52 Landmark
吉野山ロープウェイ

53 Collection
池貝工場製第1号旋盤
(現存最古の動力旋盤)

54 Collection
卓上複写機リコピー101

55 Collection
ウォシュレットG(温水洗浄便座)

56 Landmark
機械式立体駐車装置　ロートパーク

57 Collection
国産化黎明期の家庭用電化機器

58 Collection
旧横須賀製鉄所 スチームハンマー

59 Collection
大隈式非真円平軸受とGPB形円筒研削盤

60 Collection
国産初の16ミリ映写機(エルモA型)

61 Collection
からくり人形　弓曳き童子

62 Landmark
「土の館」—北海道の土作りとトラクターの博物館—

63 Landmark
農機具「資料館」—農業機械黎明期の機械と
史料の博物館—

64 Landmark
「清水港テルファー」—日本の貨物輸送を支えた港湾機械—

65 Collection
南極点到達雪上車(KD604,KD605)

66 Collection
時代を画した国産腕時計

67 Collection
国産機械「門形平削り盤」—工部省赤羽工作分局製—

68 Collection
フジ自動マッサージ機—世界初の量産型マッサージチェア—

69 Documents
国産機械製造の礎『国産機械図集』

機械遺産

Mechanical Engineering Heritage

日本機械学会「機械遺産」の認定

日本機械学会では、2007年6月に創立110周年を迎え、その記念事業の一環として、歴史に残る機械技術関連遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝えることを目的に、日本国内の機械技術面で歴史的意義のある「機械遺産」(Mechanical Engineering Heritage)の認定を開始いたしました。

「機械遺産」の認定は、本会の行う重要な事業として、今後も継続致しますので、ぜひ一度現地を訪問され、「機械遺産」をご自身の目でご覧頂きたく、あわせて今後の「機械遺産」認定に対し、ご理解とご支援を重ねてお願い申し上げる次第です。

《日本機械学会「機械遺産」認定基準》

2006年3月22日 理事会承認
2008年5月13日 変更

●目　的

歴史に残る機械技術関連遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝えることを目的に、主として機械技術に関わる歴史的遺産「機械遺産」(Mechanical Engineering Heritage)について日本機械学会が認定する。

●認定の指針

「機械遺産」とは機械技術の歴史を示す具体的な事物・資料であって、以下のいずれかに合致するものをいう。

(1) 機械技術の「発展史上」重要な成果を示すもの(工学的視点から)。

(2) 機械技術で「国民生活、文化、経済、社会、技術教育」に対して貢献したもの。

●各項目の内容

(1) 機械技術発展史上重要な成果を示すもの

〔機械技術で独創性または新規性のあるもの／品質または性能が優秀なもの／機械技術の進歩発達の過程において一時代を画したもの(改良発達)／新たな産業分野の創造に寄与したもの(波及効果のあったもの)／設計上特筆すべき事項のあったもの／日本のものづくりの心と技を端的に示すもの〕

(2) 機械技術で国民生活、文化・経済、社会、技術教育に対して貢献したもの

〔国民生活の発展、新たな生活様式の創出に顕著な貢献のあったもの／国民生活・文化に貢献したもの／地域の発展と活性化に貢献したもの／社会、文化と機械技術の関わりにおいて重要な事象を示すもの(最初、最古のもの)／動態保存で現在も活用されているもの／製造当初の姿を良くとどめているもの／意匠上特筆に値するもの／機械技術の継承を図る上で重要な教育的価値を有するもの〕

●認定基準

次の各項目のいずれかに該当するもので、広く機械技術・機械工学に寄与したもの。

(1) 対象物が、その独自性(例えば、はじめて開発されたもの、最初のもの、現在最古のもの、以前に広く使われた機械で使用されている最後のもの)によって区別されるもの。

(2) その他、機械技術史上の特徴を保有しているもの。

(3) 既に博物館などで記念物として認定されたものも含む。

●認定対象

認定対象としては原則として

(1) **Site**：歴史的景観を構成する機械遺産

(2) **Landmark**：機械を含む象徴的な建造物・構造物

(3) **Collection**：保存・収集された機械

(4) **Documents**：歴史的意義のある機械関連文書類

●対象となる時代

原則として産業革命以降の工業化がなされた時代を対象とするが、必要に応じて範囲を遡及的に拡大することを妨げない。また、年代の下限は設けない。

機械遺産監修委員会(2014年)

●委員長
長島　昭　慶應義塾大学　名誉教授

●委員
小林　敏雄　日本自動車研究所　顧問
鈴木　一義　国立科学博物館
本阿弥眞治　東京理科大学　名誉教授
松久　寛　京都大学　名誉教授
森村　勉　日本車輛製造（株）　副社長

技術と社会部門「機械遺産委員会」(2014年)

●委員長
大久保英敏　玉川大学

●副委員長
小野寺英輝　岩手大学

●幹事
吉田　敬介　九州大学

●委員
池森　寛　西日本工業大学
石田　正治　愛知県立豊川工業高等学校
緒方　正則　関西大学
黒田　孝春　長野工業高等専門学校
佐藤　智明　神奈川工科大学
星　朗　東北学院大学
村田　良美　明治大学

機械遺産 Mechanical Engineering Heritage

2014年 8月7日　発行
一般社団法人　日本機械学会
〒160-0016　東京都新宿区信濃町35番地 信濃町煉瓦館 5階
TEL:03-5360-3500(代表)　FAX:03-5360-3508

©2014　一般社団法人　日本機械学会

The Japan Society of Mechanical Engineers(JSME)
Shinanomachi-Rengakan Bldg.
Shinanomachi 35, Shinjuku-ku,
Tokyo 160-0016 Japan
TEL:+81-3-5360-3500,FAX:+81-3-5360-3508
URL:http://www.jsme.or.jp

©2014 by The Japan Society of Mechanical Engineers(JSME)

2014 年 7 月 14 日

報道関係各社　御中

一般社団法人日本機械学会

8 月 7 日の「機械の日」にあわせて全国各地でイベントを開催

◆「機械の日・機械週間」について

一般社団法人日本機械学会（会長：久保司郎　摂南大学教授／大阪大学名誉教授）は、「機械」の意義や役割を広く社会とともに考え、人間と機械のふさわしい関係を模索するため、産官学の関係各方面と協力して、七夕の中暦（月遅れ）にあたる 8 月 7 日を「機械の日」、8 月 1 日～7 日を「機械週間」（メカウィーク）と 2006 年に制定しました。

本年も「機械の日・機械週間」を中心に、機械系諸団体とともに北海道から沖縄までの全国各地で 100 件以上の記念イベントを開催いたします。

このような機会を通じて、若年層の理工系離れ・技術離れの回避、女性を含めた次世代のイノベーティブな技術者育成の支援、さらに国際的な技術学術交流の促進を図りたいと考えています。

８月７日は「機械の日」

◆「機械の日・機械週間」記念行事

開催日時：8 月 7 日（木）13:30～20:00
会　　場：早稲田大学国際会議場
参 加 費：無料（懇親会費 3,000 円）

■「機械遺産」認定表彰 13:30～15:30

今年度認定「機械遺産」8 件の選定主旨・経緯説明、代表者挨拶、パネル展示
＊認定される「機械遺産」は別紙資料をご参照ください。

■「夢の機械・未来の機械」デザインコンテスト表彰式 15:40～15:55

高校生・高専学生を対象としたデザインコンテストの表彰、受賞作品説明
最優秀表彰作品を 3D プリンタで実体化した副賞の贈呈

■記念講演会 16:00～18:00

(1)「行政機関の研究者として」
春日文子（日本学術会議　副会長）

(2)「夢の機械・未来の機械，ロボットの実現に皆で急ごう」
藤江正克（早稲田大学　教授）

■懇親会 18:15～20:00

会費：3,000 円（当日会場にて申し受けます）

◆国立科学博物館にて開催されるイベント

■「あつまれ！みらいのエンジニア！！」
ー小中学生向け体験型イベント，絵画コンテスト表彰ー

開催日：8 月 2 日（土）～3 日（日）
会　場：国立科学博物館　地球館 2 階
入館料：一般・大学生 620 円，高校生以下無料

8 月 2 日（土）　（いずれも 30～45 分程度）
・「ロボット教室～ロボットと触れ合おう～」（芝浦工業大学）
・「JAXA コズミックカレッジ『ロボットアームを作ろう』」（日本宇宙少年団（YAC）横浜分団）
・「宇宙で開く大きな構造物　―構造の仕組みについて考えよう―」（東京都市大学）
・「振動で進む不思議なブラシ」（埼玉大学）
・「手作りの 2 足歩行ロボット」（日本工業大学）

8 月 3 日（日）
《オーム社「ロボコンマガジン」協力》
・「モータのしくみがよくわかる！　ぶるぶるロボットを作ろう」（埼玉県立狭山工業高等学校）
・「ダイレクトドライブ方式を使ったサッカーロボットで遊ぼう！」（ロボットアーティスト　三井康亘）
《日産自動車㈱協力》
・「電気自動車教室」日産リーフの模型を作って、環境問題や電気自動車の仕組みを楽しく学ぼう！
・「空気の力」くるまが速く走られるひみつ

■展示会「日本の先端科学技術の紹介」
ー日本機械学会賞（技術），優秀製品賞，機械遺産パネルの展示ー

開催日：7 月 29 日（火）～8 月 11 日（月）
会　場：国立科学博物館　地球館 2 階
入館料：一般・大学生 620 円，高校生以下無料

日本機械学会「機械遺産」として昨年までに認定された 61 件のパネルを展示いたします。
また、「日本の先端科学技術」となる 2013 年度学会賞（技術）受賞技術 6 件、優秀製品賞受賞製品 3 件を、受賞各社の説明員や本会シニアボランティアがわかりやすく紹介いたします。
機械遺産及び最新の受賞技術を通じて、過去から最先端の機械技術をご覧いただくとともに、特に小中学生には夏休みの自由研究として学校に提出できるようお手伝い（認定証を発行）いたします。

■2014 夏休みサイエンススクエア「おもしろメカニカルワールド」

（国立科学博物館 主催／日本機械学会関東支部 協力）
開催日：7 月 29 日（火）～8 月 10 日（日）　＊8 月 4 日（月）は休室
会　場：国立科学博物館　日本館 1 階企画展示室
入館料：一般・大学生 620 円，高校生以下無料

7 月 29 日（火）～31 日（木）
「自分で作れる！ちょっと不思議なやじろべえ」（埼玉大学：長嶺研究室）
8 月 1 日（金）～3 日（日）
「ブランコは、なぜゆれるの」（東京工業大学：木村研究室）
8 月 5 日（火）～7 日（木）
「あれ、水タンクで建物の揺れが止まるよ」（東京大学：金子研究室）
8 月 8 日（金）～10 日（日）
「自然を守る！クリーンエネルギーってなんだろう？」（早稲田大学：勝田研究室）

◆機械の日・機械週間ホームページ

http://www.jsme.or.jp/kikainohi/

【ニュースリリースに関するお問い合わせ先】
〒160-0016　東京都新宿区信濃町 35 番地　信濃町煉瓦館 5 階
一般社団法人日本機械学会
学会運営部門　会員・情報管理グループ　井上
電話（03）5360-3503／FAX（03）5360-3508
E-mail：inoue@jsme.or.jp

一般社団法人日本機械学会

「機械の日・機械週間」記念行事－記念講演，機械遺産認定表彰－

http://www.jsme.or.jp/kikainohi/

（企画　日本機械学会 2014 年度「機械の日」実行委員会）

開 催 日　2014 年 8 月 7 日（木）13.30～

会　　場　早稲田大学国際会議場（東京都新宿区西早稲田 1-20-14）

趣　　旨

「機械の日・機械週間」は，機械技術がどのように社会や産業の健全な発展に役立っているか，その将来はどのように社会生活等に貢献できるかを広く社会と共に思考する国民的な記念日として制定されました．技巧上達を祈念する中国の祭りである「乞巧奠（きっこうでん）」（乞は願い，巧はたくみ・技術，奠は祭り）に於いて，神に捧げる御衣を「棚機（たなばた）」という織機で織り上げたことから生じたとされる「七夕」の中暦にあたる 8 月 7 日を「機械の日」，8 月 1～7 日を「機械週間」（メカウィーク）と定義しています．

本会では，2007 年度より「機械の日」を記念した行事を開催してきました．2011 年の東日本大震災以降は機械工学・技術が社会の安全・安心にどう貢献できるかをテーマとして開催してきました．2014 年度も記念行事として，記念講演 2 件，機械遺産認定表彰式，本年度からの新企画であるデザインコンテスト（対象：高校生）の表彰式を早稲田大学国際会議場に於いて開催いたします．併せて「機械の日」を含む前後に，関係諸団体，支部・部門による様々な記念行事を全国各地で開催する予定です．

多数の皆様のご参加をお待ちしております．なお，機械の日，機械週間関連諸行事等詳細に関しては，ホームページ（http://www.jsme.or.jp/kikainohi/）をご参照下さい．

なお，近年毎年行っている絵画コンテスト（対象：幼・小・中）の表彰は展示会「日本の先端科学技術の紹介」の期間中に国立科学博物館で行う予定です．

8 月 7 日は 18.15～懇親会（有料）を予定しております．

式 次 第

1. 開会挨拶　「機械の日」実行委員会委員長　勝田正文（13.30～13.35）
2. 会長挨拶　日本機械学会会長　久保司郎（13.35～13.40）
3. 日本機械学会機械遺産認定表彰（13.45～15.30）
   （1）選定主旨・経緯説明　機械遺産委員会委員長　大久保英敏
   （2）認定証授与式（贈呈者　日本機械学会会長　久保司郎）
   （3）代表者挨拶
   ＊機械遺産のパネル展示
4. デザインコンテスト表彰式（15.40～15.55）
   （1）選定主旨・経緯説明　「機械の日」実行委員会委員長　勝田正文
   （2）表彰状授与（贈呈者　日本機械学会会長　久保司郎）
   （3）表彰者挨拶及び受賞作品の説明
5. 記念講演
   （1）春日文子（日本学術会議　副会長）（16.00～17.00）
   講演題目：「行政機関の研究者として」
   （2）藤江正克（早稲田大学　教授）（17.00～18.00）
   講演題目：「夢の機械・未来の機械，ロボットの実現に皆で急ごう」
6. 閉会挨拶　日本機械学会副会長　大野信忠

7. 懇親会（18.15～20.00）

会費：3,000 円（当日会場にて申し受けます）

参 加 費　「懇親会」をのぞいて会員・会員外に関わらず無料

申込方法　電子メールないしは FAX にて，「8 月 7 日機械の日記念行事申込み」と表記の上，(1) 氏名，(2) 所属，(3) 連絡先，(4) 電話，(5) FAX，(6) 会員の場合は会員資格と会員番号，(7) 懇親会参加の有無，を記入して下記担当宛お申し込み下さい.

申 込 先　日本機械学会「機械の日記念行事」係／〒160-0016　東京都新宿区信濃町 35 番地　信濃町煉瓦館 5 階／電話（03）5360-3505／FAX（03）5360-3509／E-mail：kikainohi@jsme.or.jp

協賛（予定）

エネルギー・資源学会，化学工学会，可視化情報学会，火力原子力発電技術協会，空気調和・衛生工学会，軽金属学会，計測自動制御学会，自動車技術会，精密工学会，ターボ機械協会，日本エネルギー学会，日本音響学会，日本ガスタービン学会，日本技術士会，日本技術史教育学会，日本金属学会，日本計算工学会，日本原子力学会，日本工学アカデミー，日本工学会，日本航空宇宙学会，日本混相流学会，日本材料学会，日本産業技術教育学会，日本船舶海洋工学会，日本塑性加工学会，日本鋳造工学会，日本伝熱学会，日本トライボロジー学会，日本熱物性学会，日本燃焼学会，日本マリンエンジニアリング学会，日本流体力学会，日本冷凍空調学会，日本ロボット学会，発明協会，溶接学会

後援（予定）

文部科学省，経済産業省，国土交通省，科学技術館，国立科学博物館，産業技術総合研究所，電気事業連合会，日本科学未来館，日本学術会議，日本機械工業連合会，日本工作機械工業会，日本商工会議所